



発行所 長岡新聞社  
〒940-0071  
新潟県長岡市表町2-3-1-2F  
電話 0258-32-1933  
FAX 0258-32-1934  
naganews@crest.ocn.ne.jp

べ、長岡南越路スマートICは約3分の1(561日)で到達。この影響であろうか、隣接する小千谷ICや長岡ICの利用台数は減少している。しかし、全体の利用台数は1日あたり698台(約2%)増加し、同一Cのオープン、高速道路の利用を促進しているといえる。今後さらなる利用増加が期待されている。

実験装置などを使用して研究を重ねたという。また大学院入学のころは、学生運動が盛んな時期で学内はバリケードで封鎖されていたという。そのようななかでアイスクリームの冷凍庫や虫眼鏡など、身近な材料でアスファルトの粘度を測る技術を合成ゴムの会社と共同開発したりもした。大学院卒業後企業に就職し、その後研究が実用化されていく。

奈川工科大学、日本大学などや佛ブリチストン、福田道路(株)など企業からも研究会のメンバーに参加があり、1996年まで研究が続いた。最終講義は「良い仲間」に恵まれて43年間幸せでした」との言葉で終わった。最終講義の準備を中心になつてすすめてきた高橋修准教授は「先生は研究面での輝かしい実績ばかりでなく、昔の気風を受け継いだ教授です。学生の面倒見がいい先生でした。そんな先生がいなくなるのはとても寂しいです」と謝意を述べていた。

### 長岡技術科学大学 丸山暉彦教授が 退官記念講義

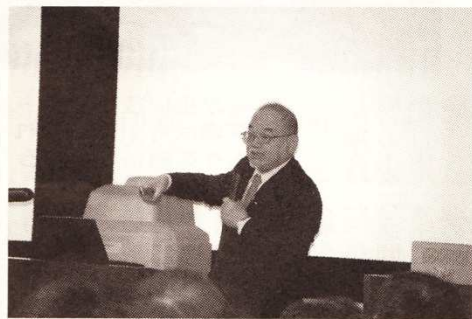
4月17日丸山暉彦教授(長岡技術科学大学道路工学)の最後の講義が、同大学マルチメディアセンターで開催された。3月11日に発生した東日本震災の影響で、約300人の予定が3分の1になったが、全国から企業や道路の関係者、研究者、卒業生らがかけつけ、最後の講義を聴取していた。

丸山教授は、自分の修士論文から語り興じた。院生時代は、道路が大学の研究対象ではなかったため、自分自身で造った



昨年の様子  
(写真・当社資料)

被災地への募金を  
行う。義  
援金は日  
本赤十字  
社長岡支部を通じて被災地へ届ける。23日にはアルビレックスベースボールクラブの選手らが募金活動を行う。



惜しまれながらの最終講義

### 桜見頃は4月下旬 ライトアップは週末のみ

#### 悠久山 桜まつり

悠久山公園(御山町)は4月8日から「悠久山桜まつり」を開催している。今年はまだ会場に残雪があり、桜の見頃は4月25日頃になる見込み。

昨年まで、まつり期間中は毎日夜桜のライトアップを実施してきたが、今年は節電に配慮し、ライトアップの期間や時間を短縮。イベント等も桜の見頃に合わせて一部変更した。

「神輿渡御」は4月24日(午後2時~午後4時30分)に変更。おもしろいもの広場」は23・24の両日(午前11時~午後4時)に変更。「菫柴神社」は23・24の両日(午後4時~午後6時)に変更。同本部に募金箱を設け、東日本大震災の被災地へ募金を募る。25・26の両日には、北部・南部体育館に避難している人を対象に、今年一番の桜の見頃を迎える悠久山と、郷土資料館や菫柴神社などを案内する。

長岡技術科学大学

## 丸山暉彦教授が

### 退官記念講義

4月17日丸山暉彦教授（長岡技術科学大学・道路工学）の最後の講義が、同大学マルチメディアセンターで開催された。3月11日に発生した東日本大震災の影響で、約300人の予定が3分の1になったが、全国か

ら企業や道路の関係者、研究者、卒業生らがかけつけ、最後の講義を静聴していた。

丸山教授は、自分の修士論文から語り興じた。院生時代は、道路が大学の研究対象ではなかったため、自分自身で造った実験装置などを使用して研究を重ねたという。また大学院入学のころは、学生運動が盛んな時期で学内はバリケードで封鎖されていたという。

そのようななかでアイスクリームの冷凍庫や虫眼鏡など、身近な材料でアスファルトの粘度を測る技術を合成ゴムの会社と共同開発したりもした。大学院卒業後企業に就職し、その後研究が実用化されていく。

丸山先生の研究対象は道路。騒音を低減したり、高速道路の舗装を水はけがよいアスファルトにすることで業績を積み

上げてきた。事故率の減少に貢献もした。道路分野での新技術開発は、私たちが日々使う道路に活かされている。

1989年には、水はけのよいポーラスアスファルトの研究会を立ち上げ、同大学を中心に新潟大学、北海道大学、神



惜しまれながらの最終講義

奈川工科大学、日本大学などや株ブリヂストン、福田道路株など企業からも研究会のメンバーに参加があり、1996年まで研究が続いた。

最終講義は、「良い仲間」に恵まれて43年間幸せでした」との言葉で終わった。最終講義の準備を中心になってすすめてきた高橋修准教授は「先生は研究面での輝かしい実績ばかりでなく、昔の気風を受け継いだ教授です。学生の面倒見がいい先生でした。そんな先生がいなくなるのはとても寂しいです」と謝意を述べていた。

2011年4月23日 長岡新聞